

**2026新年
メッセージ**

2026年を迎えて



総会長 張 慶 泰（船橋教会）

在日大韓基督教会のすべての教会の牧会者と信徒の皆様、新しい年の幕開けにあたり、神様の恵みと平安が皆様のご家庭とご奉仕の上に豊かに注がれますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年、私たちは多くの課題と変化の中にありましたが、神様が与えてくださった恵みによって、教会と宣教の場をしっかりと守り歩むことができました。時には疲れ、揺らぐ瞬間もありましたが、「あなたがたの労苦は主にあって無駄ではない」（Ⅰコリント15：58）という御言葉の通り、主が私たちの歩みを支えてくださいました。それぞれの場所で黙々と仕え、献身してくださったすべての方々に深く感謝いたします。

第58回期の主題は、主イエスの切なる祈りから与えられた御言葉です。「収穫は多いが、働き手が少ない…収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」（マタイ9：37～38）

私たちの教会は今、重要な転換点に立っています。次世代の減少、多文化環境の拡大、孤独や霊的空虚さは確かに大きな課題ですが、主はこれらの状況を“新しい収穫の機会”として見なすよう導いておられます。今もお福音を必要と待ち望んでいる人々は多く、神様は教会を通してその方々にご自身の御心を示そうとしておられます。

新しい年を迎え、私たちは次の二つの使命を新たに握りしめたいと思います。

第一に、「慰められる教会」から「慰める教会」へ

イエス様は折れた葦を折らず、くすぶる灯心を消されない方です（イザヤ42：3）。

私たちの教会が互いの弱さや痛みを受け入れ、回復を助ける共同体となることを願います。温かい一言、小さな配慮が、一つの魂を立ち上がらせ、教会の未来さえ変える力となります。

第二に、「働き手の目」をもつ教会へ

イエス様は群衆をご覧になり、深く憐れまれました（マタイ9：36）。

次世代、多文化家庭、高齢者、職場で孤立する人々、言語と文化の壁の中で助けを求めている人々に目を向け、「主よ、この方々に向かう宣教の門を示してください」と祈る教会でありたいと思います。今年、各教会が働き手を立て、訓練し、派遣する共同体となることを願います。

在日大韓基督教会のすべての教会と信徒の皆様、2026年へ向かうこの旅路において、総会は各教会を励まし、共に歩むパートナーであり続けます。牧会者には新たな力が与えられ、信徒の皆様は再びビジョンを抱き、教会は神様の御心を表す「収穫の共同体」となることを願います。

新しい年も、主の大きな慰めと導きが皆様の上に常にありますようお祈りいたします。

「収穫の働き手を送ってください！」

この祈りが私たち共同体の告白となり、神様が備えておられる新しい歴史の扉を開く鍵となることを心より願います。

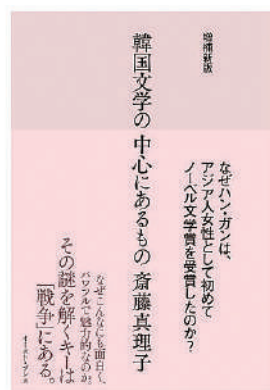
新年の祝福をお祈り申し上げます。

日キ教会と宣教協力委開催

韓国文学翻訳家の斎藤真理子氏に特別講演

2025年12月4日（木）、CCJ柏木教会にて日本キリスト教会（CCJ）との宣教協力委員会が開催された。

1部として特別講演が行われ、韓国文学翻訳家の斎藤真理子氏が「韓国文学とキリスト教」というテーマで講演した。現代作家が描く韓国キリスト教の姿を紹介し、韓国教会が批判を受



けるようになった背景について、肯定的・否定的両面から語られた。社会に対するキリスト教の役割について改めて考えさせられる内容であった。講演は対面とオンラインの併用で実施された。参加者は対面56名、オンライン62名であった。

第2部として宣教協力委員会が行われた。まず副総会長の金明均牧師による挨拶と祈祷があり、その後両教団からの報告、質疑応答、課題に関する意見交換が続いた。両教団が抱える問題や共に取り組むべき宣教課題について話し合いが行われ、最後にCCJ大会議長の中家契介牧師の閉会祈祷で終了した。

2026年を迎えて／各地方会会長・全国女性会会長

関東地方会会長〈金迅野 牧師〉



関東地方会は、多くの課題を抱えています。総会に参加した際、有志が集い、課題を整理した結果を、閉会礼拝の直前に特別にお時間をいただき、他の地方会の方々と共有すべく、発表させていただきました。

困難のなかにある教会を物心両面でどのように支えていくのか、教役者の人数の減少に対してどのような対策を講じるべきなのか、ワーキンググループを立ち上げることをご提案いたしました。

地方会任職員会でも共有し、調査・研究に着手しはじめたところです。祈りのなかで、聖霊の励ましを受けながら、一歩一歩主に近づいて行ける地方会でありたいと思います。

併せて、やまない戦争、移民や少数者を差別し排除する心性が拡張する世界にあって、「社会的」なことに目を閉ざし教会の内側に閉じこもるのではなく、イエス・キリストの十字架を仰ぎながら、他者の痛みと自らの痛みを重ねつつ歩む地方会でありたいと願います。

中部地方会会長〈李珍容 牧師〉



中部地方会は、静岡県、長野県、愛知県、そして岐阜県にある8つの教会と2つの伝道所で構成されています。

中部地方会に属しているそれぞれの教会も多くの課題に直面しています。けれども、キリストの愛と教えに基づく一つの共同体として、互いに支え合い、励まし合いながら主が委ねてくださった使命に心と力をつくして従って行くように努力しています。このような努力がありますのでこれよりもっと主の御旨に合う、よりふさわしい共同体になることができると信じています。

新約聖書のマルコによる福音書の4章をみると、イエス様は神様の御国を地に蒔いたからし種として説明しています(マルコ4:31)。貧しく弱い種であります。神様の御国はそこから始まります。ある教会は既に芽が出ている姿であるかもしれません。ある教会は既に木のような姿であるかもしれません。また、ある教会は既に葉が茂り、実を結んだ姿であるかもしれません。

もしかすると、まだ芽が出ていない種のような姿である教会があったとしても、私たちの存在がイエス・キリストによって父なる神様が選び、聖霊様によってこの地に蒔かれた存在であるならば、私たちの内には芽が出て実を結んでいる神様の御国があると信じています。

たとえ、それぞれ教会の状況は別だとしても、主の中で一つになったわたしたちが共に連携し、さらに協力すれば、日本に向けた主の御旨がわたしたちを通して叶われることを望めると思い、信じます。

ですので、共に神の愛を分かち合い、共に信仰の道を歩んでいきたいと思ひます。

これのためにお互いにより関心を持って祈りながら連携する中部地方会となりますように願います。

関西地方会会長〈金鍾権 牧師〉



2026年を迎えるにあたり、昨年一年、私たちは韓国や日本だけでなく、世界各地で不安をあおり、さらに深める暗いニュースに多く接してきました。世の中がどのように揺れ動こうとも、私たちは自分たちに与えられた走るべき道を、黙々と走り続けたいと願っています。

2025年度の関西地方会は、さまざまな働きを通して御言葉に耳を傾け、この時代と社会の痛みを目を背けることなく、隣人に仕え、教会に仕えてきました。2025年を、私たちは皆、本当によく耐え抜いてきたと思います。

2026年は、動く信仰、動く教会となることを願っています。

特に、次の世代を担う青年たちが希望を抱いてこの道を歩んでいけるように、既成世代がより真剣に考え、祈り、率先して信仰の模範を示し、健全な教会を築いていくことが求められています。

「Sola Fide」(ただ信仰のみ)、「Sola Gratia」(ただ恵みのみ)、「Sola Scriptura」(ただ聖書のみ)、「Solus Christus」(ただキリストのみ)、「Soli Deo Gloria」(ただ神にのみ栄光あれ)。これら宗教改革の標語を、あらためて思い起こすこの頃です。2026年の新年にあたり、在日大韓基督教会に属するすべての教会と信徒の皆さま、またそのご家庭一つひとつの上に、主の平安と特別な恵みがありますよう、心より祈っています。

西部地方会会長〈韓世一 牧師〉



現在、私たち西部地方会は13教会、2伝道所で構成されています。しかし、そのうち3つの教会と2つの伝道所には牧師がいないという、深刻な「無牧」の問題を抱えています。この課題は、私たちの地方会にとって重要な課題です。

それでこの現状に対し、私は地方会全体の連帯を強化することが大きな解決策の一つであると思っています。そのために、まずは「無牧教会等再建検討ワーキンググループ」で、具体的な再建計画を立てて実行に取り込みたいです。単に牧師を招聘するだけでなく、無牧教会が自立と地域に沿った伝道ができる持続可能なモデルを構築することを目指します。

また、各教会と伝道所の情報をワーキンググループで分かち合い、活性化させるとともに、この教会と伝道所に対して積極的に訪問・支援を行いたい。そして、西部地方会教会に属する各教会の間に連帯を強化し、「主の中で兄弟である地方会」を目指して、互いに支え合う関係性を築きたいです。

最後にこの問題は西部地方会だけではなく、在日大韓基督教会に属する全ての地方会が直面している無牧や高齢化と信仰の継承に繋がる共通の課題です。願わくは西部地方会と各地方会が、互いに情報の交換と具体的な方法を共有することを願っています。

2026年は西部地方会の弱さを強さに変え、希望に満ちた新しく記念すべき年にしたいと願っています。

西南地方会会長〈尹善博 牧師〉



2026年の抱負は、地方会を豊かにすることです。そのため3つの課題を挙げます。

ひとつは、個教会・伝道所の福音宣教に寄り添います。個教会が抱えている課題・問題に寄り添えられれば、その数だけ豊かになれると信じています。特に支援に関する可能性については、任職員会でよく話し合わなければいけません。教役者同士が顔を合わせ、意見交換できる時間を増やします。

ひとつは、西南KCCと連帯し、地方会の歴史を学びます。西南地方会（前身の九州地方会）は、1926年呉澤寛牧師が伝道して教会が形成されていきます。教会があるのは当然ではありません。先達の伝道に、主が種を蒔いてくださり、教会が建てられました。

今年で100年になります。地方会は、その伝道を受継いでいることを忘れてはいけません。ですから個教会の歴史を学び、先達の干証を聞きます。昨年学習会を、福岡・宇部・熊本で行いました。今年は別府・対馬で開催します。

ひとつは、日本基督教団九州教区・西中国教区(山口西分区)と、日本キリスト教会九州中会との関係を大切にします。特に九州教区との共同行事「ヘイトスピーチを考える共同集会」・「みんなで(ちょっと)集まろう」は、財産です。今日まで先輩方が関係を築いてくださったので、この共同行事が生まれました。地方会は委員会の活動に感謝し、支援をします。

最後に、各地方会のお働きを覚えてお祈りします。主の恵みが、皆さまと共にありますように。

全国女性会会長〈宋福姫 勸士〉



在日大韓基督教会に属する全ての教会、女性会の皆さま！

2026年、新しい年がスタートしました。新年おめでとうございます。

今年も神さまが私たちを愛し導いてくださることに感謝して過ごせますようお祈り

いたします。

私は全国女性会の会長として2022年第63回定期大会で選出され、2026年5月末まで務めさせていただきます。会長として誠実に職務に励みたいという心でしたが振り返って見ると全てが主の恵みでした。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ福音書15:5)

ぶどうの木であるキリストが、その枝である私たちに生命を流し出し、私たちを養ってくださいます。接木された者として、主イエスの期待に応えられるよう、キリストに、そして御言葉に固く結びつき、いつどんな時も、神さまが共にいて守ってくださること、祈りを受けとめ導いてくださることを信じる一年となりますようお祈りいたします。

西南
地方
会

クリスマス音楽礼拝を開催 8教会が近況報告と讃美を捧げる

12月14日(主)の夕方、折尾教会(オンライン併用)において西南女性連合会主催、西南青年部共催でクリスマス音楽礼拝をささげた。

1部の礼拝は李好子執事(小倉)が司会を務め、李惠蘭牧師(折尾)が「平和の王イエス・キリスト」(イザヤ9:5)と題して説教を行った。

西南連合聖歌隊は高文局長老(別府)が指揮を執り、恵みに満ちた讃美をささげた。2部の交流会は尹善博牧師(博多、地方会会長)が司会を務め、参加した8教会が近況報告と讃美をささげた。8教会103名が参加し、讃美と御言葉、そして愛餐の時を分かち合った。(報告:林明基)



ルツ結婚相談所

お気軽にお電話ください。心を尽くして御成婚までお世話します。お電話をお待ちしています。

代表 崔貞淑(神戸東部教会名誉勸士、仲人歴30年)

〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町10-35-504

090-3429-9707

関
西
女
性
会

秋の一日研修会」開催 地域伝道について講演会を行う

2025年11月15日(土)に堺教会において、「秋の一日研修会」が開催された。この研修会は、2年に一度に教育部の主幹で女性会員が集い、学びと交わりの時間を持つ行事である。今回は「光を放て!主と共に歩まれる」とのテーマで、去る6月22日に南港伝道所と合併して堺教会に着任された金大賢牧師を講師として招き、35名の参加で開かれた。

第1部の開会礼拝では、任惠瑛教育部長の司会で石橋真理恵伝道師より「忘れ去られた者(マルコ2:1~6)」という題目で説教が行われた。

第2部では、康玲子社会部長の司会で「地域伝道、一緒に考えませんか」との主題で金大賢牧師の講演が行われた。まず、伝道について再考させてから、地域福祉及び社会福祉協議会と地域伝道の話を聞き、グループ活動を行った。

各グループから伝道する教会像について話し合った内容の報告をし、金大賢牧師のまとめで研修会を終えた。個人への伝道ばかり思いがちである狭い我らの視野を、地域の資源や地域福祉とのつながりまで広げることができ、地域の中に存在する教会の強みや役割について考えさせられる貴重な時間となった。また、会場準備や心を込めてもてなしをして下さった堺教会女性会の方々に感謝する。(報告:姜志鮮)



特別寄稿

CCA常議員会・プログラム参加報告

—アジアの教会の歩みと、ミャンマーの声に耳を澄ます—

CCA実行委員 鄭詩温 牧師

2025年11月17日から21日にかけて、タイ・チェンマイにおいて開催されたアジア・キリスト教協議会（Christian Conference of Asia: CCA）の常議員会に参加した。本常議員会は、今後のCCAの方向性を定める重要な協議の場であり、特に2027年に迎えるCCA創立70周年（プラチナ・ジュビリー）に向けた準備が大きな議題となった。創立70周年を記念する主要行事として、アジア宣教会議および第11回アジア神学者会議を開催することが決定された。これらは単発の行事ではなく、感謝と祝賀へと至る一連のプログラムの中核をなすものであり、2027年4月21日から27日にかけて実施される予定である。

また、2027年に複数の大規模行事が集中することを踏まえ、常議員会は第16回CCA総会を、当初予定されていた2028年ではなく、2029年に開催することを決定した。これにより、諸行事の準備と実施に十分な時間を確保する意図が示された。

今回の常議員会における重要な決定事項の一つが、新総幹事の選出である。常議員会は、大韓イエス教長老会（PCK）出身の文貞恩（ムン・ジョンウン）牧師を次期総幹事として選出した。文牧師は、現総幹事であるマシューズ・ジョージ・チュナカラ博士の後任となり、2026年6月5日にCCA本部にて就任式を行った後、正式に職務に就く予定である。これを受け、次回の常議員会は、2026年6月2日から5日まで、同じくタイ・チェンマイにて開催されることも確認された。

常議員会終了後の11月21日から24日まで、「エキュメニカル・ディアコニアに関するアジア教会指導者会議」が開催され、続いて26日から28日まで、「ミャンマーにおける人々の安全保障、正義ある平和、民主化のためのグローバル・アドボカシーに向けて」と題する会が行われた。

CCAでは、アジア各地の教会・教団が、この地域で今まさに起こっている現実を分かち合い、共に祈り、キリスト教としてどのように社会に証していくのかを模索する場である。今回の常議員会において、その理念を具体的に体现する出会いがあった。それは、ミャンマー出身の若い信仰者との交わりである。

彼女は、大学生になった頃にミャンマーで内戦が始まったと語った。当時、彼女はアメリカの大学に在学していたが、夏休みのたびに市民運動に参加するため、タイを経由して内陸からミャンマーへ入国していたという。母親からは反対されたものの、父親は「今のミャンマーをしっかりと見てきなさい」と背中

を押してくれたそうである。彼女は、社会からの強い圧力を受け、市民運動に関わっていた友人が内戦によって命を奪われたことを語った。現在もなお、母国に残る家族の安否を案じながら、多くの人びとが苦しみの中に置かれている現実を訴えていた。彼女が語る「今のミャンマー」は、報道で示される数字や統計ではない。そこには、生きるための声があり、祈りがあり、犠牲があり、そして希望を求める切実な叫びがある。非武装の市民、信仰者、教会、支援団体でさえもが、襲撃、拘束、殺害の対象となり、特にキリスト教徒を含む宗教的少数者や民族的マイノリティは、深刻な差別と弾圧の下に置かれている。さらに、少数民族、宗教的マイノリティ、障がい者や社会的弱者は、戦争、差別、貧困、抑圧という重なり合う苦しみを背負わされている。

ミャンマーは現在も、戦争状態、あるいは深刻な人道・人権危機の渦中にあると言わざるを得ない。そこで生きる人々は、国家による暴力や差別、抑圧、拒絶、迫害の中で、自らの価値が否定され、見捨てられているのではないかという思いを抱かされているかもしれない。その現実に向き合うことは、CCAが掲げてきた「共に生きるアジア」や「共通の宣教課題」を、決して抽象的な理念としてではなく、具体的な責任として受け取ることにはかならない。

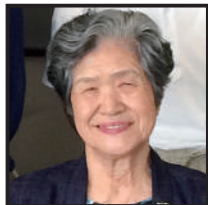
今回参加した常議員会とプログラムを通して、今後の記念行事や組織運営に関する重要な決定を行う場であると同時に、アジアの現実、とりわけ苦しみのたぐひの中にある人びとの声に耳を傾ける場でもあった。CCAの歩みが、これからもアジアの現実



浜松教会

金松子名誉長老が召天

長らく浜松教会で奉仕



2025年11月18日、浜松教会の金松子名誉長老が召天され、家族葬で葬儀が行われた。（享年94歳）

故・金松子長老は1931年日本で生まれ、1976年に受洗、2001年に浜松教会において長老将立され、2005年に名誉長老として推戴された。

2026年度 宣教師・神学生研修会

在日大韓基督教会に加入する宣教師と、伝道師考試を受験するために研修会を実施します。

- ・日 時：2026年2月15日（主日）17：00～2月20日（金）
- ・場 所：オンライン（ZOOM）
- ・履修課題：KCCJ神学・宣教理念、憲法・規則、在日同胞史、KCCJ歴史、日本教会史・神学、エキュメニカル神学、KCCJ牧会・礼拝・礼典・説教など、総会行政・年金・福祉など日本生活全般
- ・問い合わせ：志願や詳細は総会事務局に問い合わせください。（金柄鐫080-4377-3927）

2026年外キ協公開集会

日 時●1月22日（木）14時～20時30分／オンライン

主 題●差別と排外主義に抗し、「共に生き、共に生かし合う」教会と社会

◇基調報告：佐藤信行さん「外キ協40年目の到達点と今後の課題」

◇特別報告：韓国NCC「韓国教会と韓国社会の現在」

◇特別報告：石橋学さん（神奈川新聞記者）「排外主義の現場」
「在日ミャンマー人の現在と難民・移民基金がめざすもの」

*申込⇒前日までにraik.kccj@gmail.comへ

外国人住民基本法の制定を求める 2026年／第40回全国キリスト者集会

～排外主義にNO！ 共に生きる社会にYES！～

日時●2026年1月23日（金）18：30～20：45／対面とオンライン

会場●早稲田奉仕園リパティホール

<第一部>礼拝 ◇メッセージ：大嶋果織さん

<第二部>集会 ◇日本でも共に生きる青年たちの証言

・メタノイア（クルド人など移民の子ども支援）

・仮放免高校生奨学金プロジェクト

・永住許可有志の会（日本生まれの青年たち）

*オンライン参加⇒<https://forms.gle/r9wgstfsgnTi8axUA>へ